

国内最大級！日本と世界の製薬市場を結ぶ国際展示会 & セミナー

医薬品開発のための国際展示会 『CPhI Japan 2019』3月に開催

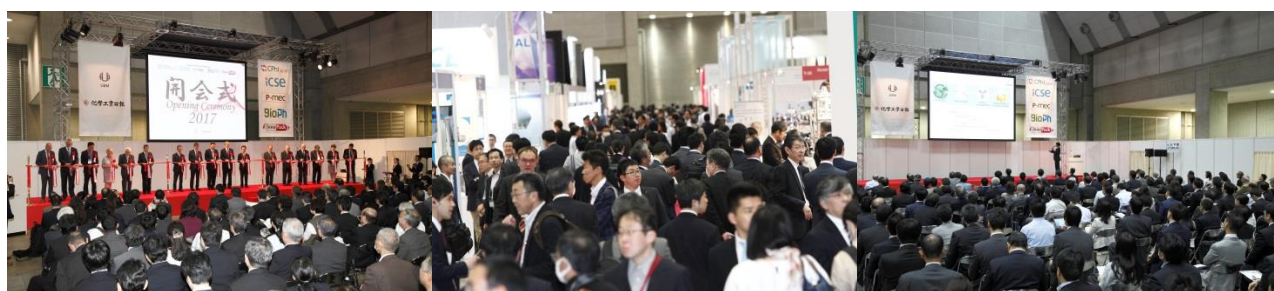
医薬品開発を支える6つの展示会に業界のリーディングカンパニーが一堂に集結！
世界30の国と地域から550社が出展

- ・CPhI Japan (国際医薬品原料・中間体展)
- ・ICSE Japan (製薬業界受託サービスエキスポ)
- ・P-MEC Japan (医薬品原料 機器・装置展)
- ・BioPh Japan (バイオフーマジャパン)
- ・InnoPack Japan (DDS・医薬品包装展)
- ・FDF Japan (FDF 最終製剤エキスポ)
- ・Pharma IT & Digital Expo (ファーマ IT & デジタルエキスポ)

会期：2019年3月18日(月)・19日(火)・20日(水)

会場：東京ビッグサイト 東1・2・3ホール

主催：UBM ジャパン株式会社、UBM EMEA、株式会社化学工業日報社



UBM ジャパン株式会社、UBM EMEA、株式会社化学工業日報は、2019年3月18日から20日の3日間、東京ビッグサイトにて、国内最大級の国際医薬品原料・中間体展「CPhI Japan 2019」をはじめとする医薬品の研究開発・製造のための7つの国際展示会を開催する。今年のイベントには、新たな併催展として最終製剤をテーマにした「FDF Japan」、製薬向けのITテクノロジーに特化した「ファーマ IT & デジタルエキスポ」が誕生。また化学合成の医薬品原料だけでなく天然素材・抽出物及び漢方製剤原料にスポットを当てた「NEX 天然素材・抽出物ゾーン」も新設し、過去最大規模での開催となる。

1990年にUBM社がドイツのフランクフルトでスタートした国際的な原薬・中間体の展示会「CPhI (シー・ピー・エイチ・アイ)」は、2002年の日本初開催以来、市場ニーズに応えるべく、そのテーマを「医薬品原料」のみならず医薬品開

発に特化した「受託サービス」、「原薬開発のための機器・装置」、「バイオフィーマ」、「パッケージ技術・DDS」そして「FDF 最終製剤」までに拡大しており、今日までに、550 を超える出展社と約 20,000 人以上の業界関係者が集う包括的な「国際医薬品開発展」に成長している。

本年は、前述の新展やテーマゾーンの他、「オンコロジーコンファレンス」とセミナーも一層充実。例年よりも幅も広がり、内容の濃いものとなっている。

新薬開発における国際競争の激化、品質保証・安全性の確保、薬価改定による生産コストの見直し、薬事制度の国際標準化、そしてジェネリック医薬品の市場シェアの拡大に伴う安定した原薬メーカーの確保など、様々な課題と直面する日本の製薬業界。「CPhI Japan」は更なる競争力と国際化が求められている日本製薬市場において、新たなパートナーシップの構築と最新情報の把握を目的に開催されている国際イベントである。

また、UBM 社では 2009 年より開催してきた「MEDTEC Japan」などの医療機器開発のための国際展示会を同じく東京ビッグサイトの東館で開催。さらに、第三回開催を迎える「ファインケミカルジャパン」を併催展として、医薬品開発のための展示会と併せライフサイエンス産業を包括する国際イベント『Japan Life Science Week / ジャパンライフサイエンスウィーク』として東京ビッグサイト東ホール全 6 館を使用した一大イベントとして開催。産業分野の壁を超えた新たなビジネスチャンスの創造を目指している。 <https://www.cphijapan.com/>

【CPhI Japan2019 オープニング/基調講演】

本イベントの大きな特徴は、展示スペースと合わせて 15 の会場にて行われ総計約 200 本を超える業界専門セミナーにある。医薬品業界における様々な立場のスピーカーが登場し、時に白熱した意見交換の場となることもある。来場者にとって業界の最新動向を入手する貴重な情報の場となっている。

本年のオープニングに相応しく、基調講演として 3 月 18 日（月）の 9:15 から厚生労働省 医薬・生活衛生局 審査管理課長 山本史 氏を講師に招き最近の薬事規制の動向（承認審査を中心として）について講演を予定している。さらに同じく基調講演として、日本製薬団体連合会 会長の手代木 功 氏による「医薬品産業の課題と将来展望 -イノベーション創出の観点から-」と題した講演が行われる。

また CPhI Japan 恒例企画として毎年 600 名を超える業界関係者の方々に参加いただき大好評を博する原薬国際調達フォーラム（主催：一般社団法人日本薬業貿易協会）。本年は、ICHQ3D ガイドラインについて、欧州の実例、日本の現状をもとに業界関係者で議論を行う。国内外の行政/業界団体から講師を招き、「原薬安定供給への影響」をテーマにそれぞれの立場からの講演、その後パネルディスカッション形式による討論を行う。

注目！ InnoPack Japan 2019 DDS・医薬品包装展

～QOL の向上のため“製薬業界”に求められているものとは～

超高齢化社会を迎えた日本では、QOL の向上の観点から医薬、製薬業界の関係者、大学、研究施設など医薬品に関わる関係者が注目する DDS（ドラッグデリバリーシステム）技術の進歩は必要不可欠なものとなっている。

今回の InnoPack Japan においても、その成長市場に向けて、注射器、ニードル、硝子シリンジ、プラスチック、プレフィルドシリンジなどの最新技術、サービスが紹介される。

出展社の顔ぶれは、ニプロ、日本ベクトン・ディッキンソン、大成化工、トップなど業界を代表する企業が出揃った。

また、毎回好評の本展の目玉企画でもある「InnoPack Japan コンファレンス」では、今回も最新の情報が詰まったプログラムを用意。業界を代表するリーダーたちが、「DDS 技術の最新情報とアプリケーション」、「医薬品包装技術の最前線」、「医療現場からの提言」と大きなテーマに沿って、3 日間にわたり講演する。毎回どのセミナーも立ち見ができるほどの人気であり、業界関係者には必須のセミナーと言える。

【新テーマコンファレンス】 オンコロジーコンファレンス 2019 ～ニッポンの社会問題に挑む～

最先端の技術、研究成果を革新的な医薬品、治療法の開発に結びつけるための特別企画。我が国のがん対策は、昭和 40 年頃までは集団検診の普及を中心に予防対策が進められてきたが、近年では、胃がん及び子宮がんの死亡率が低下している一方で肺がん、乳がん等が増加傾向にあり、これらのがん検診も広く行われている。

一方、がんの疫学的研究及び実験的研究により、ヒトのがんの原因、危険因子もかなり解明され、生活習慣とがんの関係が明らかにされてきたほか、環境中の変異物質、発がん物質、促進物質及びこれらに対する抑制物質の検索も行われ、一部のがんについては一次予防も可能となりつつある。しかしながら、高齢者の増加に伴い、2015 年には約 35 万人が「がん」で死亡しており、予防から最適な治療法に至るまで対策が急務の状況となっている。

このような状況下で、毎年 6 万人の参加者を集めて開催されている「ジャパンライフサイエンスウィーク 2019」の特別企画として、オンコロジーに特化したプロジェクトを新設することを決定した。

第 5 回目を迎える CPhI Woman 開催決定

製薬業界においても女性の担う役割がますます大きくなっているにもかかわらず、会社の枠を超えた横のつながりを作る機会に乏しいといった声が多い。「CPhI Women」はそんな働く女性たちの企業の垣根を超えたネットワークづくりをサポートするために誕生した、女性による女性のためのプロジェクトである。日常業務と直結したビジネスコミュニケーション構築の場として、また働く女性が抱える共通の悩みを解決するための情報交換の場として毎年展示会の会期中に併催している。5 回目の開催となる今回は、展示会場内のコンファレンス会場にて（株）メディパルホールディングス 代表取締役社長で（株）メディセオ代表取締役会長の渡辺 秀一 氏、第一三共神戸支店長の奥村滋子氏、日本マクドナルドの上席執行役員である日色 保氏、GE ヘルスケア・ジャパンの超音波製品開発部、部長の工藤 直保子 氏を迎え、女性の働き方改革について議論を行う。本セッションは、女性限定ではなく男性管理職や人事担当者必見のセミナーで

ある。

ファーマ IT & デジタルエキスポ 2019 - 変革の時代を勝ち抜くためのテクノロジー -

AI（人工知能）、IoT、ビッグデータの分析、モバイル活用など情報・通信分野におけるテクノロジーの進化に伴い、製薬業界においても研究、開発、生産、営業、マーケティングなど様々な部門で最先端のテクノロジーの活用や IT 企業との提携が進んでおり、今後も大きな注目と期待を集めている。

このような状況下で、さらに製薬業界における IT 活用を推進すべく、ヘルスケアと IT 分野に強みを持つ UBM ジャパングループのネットワークとノウハウを活かして、新たに製薬業界に特化した IT/テクノロジーをテーマとしたイベントを開催することを決定。

第 1 回目は、『研究・開発』『セールス・マーケティング』をテーマに有力 IT/テクノロジーベンダー、ベンチャー/スタートアップ企業によるソリューションを紹介する。展示会に加え医療関係者、コンサルタントなど業界のキーパーソンが製薬業界における ICT、デジタル活用を提言する多数のセミナーも開催。

第三回目を迎え、成長拡大した化学に特化した「ファインケミカルジャパン」

新製品開発・改良のための次世代化学技術展として、CPhIとともに同時開催が決定。本年が第 3 回目を迎える「ファインケミカルジャパン」では、化学メーカー、機器、装置メーカー、受託研究・開発、商社・流通関係の企業が参加を予定している。総出展社数は 100 社を見込んでおり、化学関連メーカーと各種産業分野との効率的なビジネスマッチングの場として展開が期待される。また 50 本を超える業界セミナーも合わせて決定している。

【展示会概要】

- 会期： 2019 年 3 月 18 日(月)～20 日(水)
- 会 場： 東京ビッグサイト 東 1・2・3 ホール
- 主 催： UBM ジャパン株式会社、UBM EMEA、化学工業日報社
- 後 援： 厚生労働省、経済産業省、（一社）日本化学工業協会、日本製薬団体連合会、日本製薬工業協会、日本医薬品原薬工業会、（一社）日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会、日本ジェネリック製薬協会、日本一般用医薬品連合会、日本 OTC 医薬品協会、米国研究製薬工業協会（PhRMA）、欧州製薬団体連合会（EFPIA）、（一社）日本分析機器工業会、化成品工業協会、（一社）日本医薬品添加剤協会、（一財）バイオインダストリー協会、ヨウ素学会、（一社）日本化学品輸出入協会、（一社）日本薬業貿易協会、（一社）日本食品添加物協会、（一社）触媒工業協会、（一社）日本科学機器協会、日本 CMO 協会（JCMOA）、日本プロセス化学会、（一社）再生医療イノベーションフォーラム、（国研）産業技術総合研究所、（一財）医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、（公社）日本包装技

術協会（InnoPack Japan 後援）、（公社）日本薬剤学会（InnoPack Japan 後援）、
創包工学研究会（InnoPack Japan 後援）、日本動物細胞工学会（BioPh Japan 後援）、
バイオシラ協議会（BioPh Japan 後援）

■ 入場料： 3,000 円（税込）※事前登録で入場無料

■ 公式ホームページ： <http://www.cphijapan.com/>

■ 同時開催：

「MEDTEC Japan2019」（医療機器の設計・製造に関する【アジア最大】の展示会・セミナー）

「ファインケミカルジャパン 2019」（新製品開発・改良のための次世代化学技術展）

*当展示会または「MEDTEC Japan2019」「ファインケミカルジャパン 2019」（いずれかで入場手続きをすると、両展示会を入場パスで行き来できます。

【お問い合わせ先】

UBM ジャパン株式会社

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-8-3 神田 91 ビル

TEL：03-5296-1020 Email： visitor@cphijapan.com

Web： www.cphijapan.com / www.japanlifescienceweek.com

担当：吉川（きっかわ）、関根（せきね）